

特別支援教育

◎ 目 標

- 特別支援が必要な子どもに対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その子の持つ力を高め、生活や学習で困難を改善し克服するために、適切な指導や教育を通じて必要な支援を行う。
- 学習面や行動面で特別な教育的支援が必要な子どもに、早期に実態把握を行い、学級担任の指導への支援をする。
- お互いの個性や能力を尊重し、ともに助け合う子どもを育てる。

◎努力点

- 特別支援が必要な子どもへの支援、状況について、校内の教職員が共通理解できるように努める。
- 発達障害の研修をできるだけ多くとり、専門的知識や理解を深めることができるように努める。

◎具体的な取り組み

- 子どもの実態の把握と指導（特別な支援を要する児童について）

【なかよし学級】

- ・学級の子どもの現状を現職教育の場などを通じて知らせていく。
- ・交流学級との連携を密にし、子どもの実態を把握し、可能性を見出し、その子に応じた指導をする。
- ・学習のつまづきを解明し、基礎的な学力を身につけさせるために、根気よく指導する。
(個別の指導計画の作成)
- ・多くの体験をさせる中で、生活力を身につけさせる。
(年間指導計画の作成)
- ・保護者の理解を得ながら、つなぎ愛シートを作成し、活用する。
(個別の教育支援計画の作成)

【通常学級】

- ・各学級から児童の実態を報告し、全体会で話し合う。
 - ・個別指導が必要な児童については、校内委員会で支援体制のありかたについて検討する。
- 合理的配慮に基づいた具体的な指導支援

①担任による個別的配慮

- ・児童一人ひとりが大事にされている実感を持たせる。
- ・どの子にも、より理解しやすい指導法を研究する。
 - ア わかりやすく短い言葉で話す。
 - イ 学習の見通しを持たせる。
 - ウ 絵や写真、図等を用いて視覚支援を行う。
 - エ 教室環境を整備し、感覚の過敏な子どもに配慮する。
 - オ みんなで遊ぶ楽しさを教える。

②補助者が加わった個別支援

- ・子どもに何をさせるのか明確な課題を持って、担任と補助者との連携を密にし、子どもに寄り添いつつ課題に誘う。
- ・成功体験を積ませる。

③別室での個別支援により、学習を進めたり、心の安定をはかったりする。

○教師の研修

- ・研究会、研修会、講演会等に積極的に参加する。
- ・生徒指導、人権教育との連携を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた指導・支援のあり方を研究する。

○保護者への啓発

- ・学校だよりや学級懇談会などを通して、特別支援教育の意義を説明する。

○紀北支援学校による巡回指導

- ・学期に1度、巡回指導を入れてもらう。

特別支援教育の体制

